

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：12613
 研究種目：基盤研究(A) (一般)
 研究期間：2017～2019
 課題番号：17H00999
 研究課題名(和文)働く人々の健康を促進する持続的経営：炎症マーカー・遺伝子発現を用いた実証研究

 研究課題名(英文) Sustainable management that promotes the health of working people: Empirical research using inflammatory markers and gene expression

 研究代表者
 阿久津 聡 (AKUTSU, Satoshi)

 一橋大学・大学院経営管理研究科・教授

 研究者番号：90313436
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,600,000円

研究成果の概要(和文)：個人の職場環境および仕事に対する認知や態度が生体指標を用いた生物的健康状態とどのような関係にあるのかを検証することを主目的として、心理・個人特性に関する自記式アンケートと生体指標を用いた研究を実施した。その結果、研究代表者らは、個人の健康状態に影響を及ぼすと想定される心理・個人特性(会社と個人の価値観の同一化、組織や仕事に対する誇り、絆、孤独感)を明らかにするとともに、環境要因と心理・個人特性との相互作用の境界条件に関する新たな知見を見出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 学術的意義として、本研究は、これまで医学・心理学の分野で蓄積された知見を経営学のフィールドに援用し、企業とそこで働く個人という文脈で、個人の心理・個人特性と生物的健康との関係性を明らかにした点が挙げられる。社会的意義として、世界的に健康経営へのニーズが高くなっているなか、健康経営を科学的に吟味検討し、新しい経営の視座を示した点が挙げられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to examine how individual's recognition and attitude towards his/her occupation and work environment influence his/her biological well-being as indicated by biomarkers. We conducted structured questionnaire and researches using biomarkers about mental health and personality traits. Consequently, we found that the state of mental health and personality traits (individual's values synchronizing with his/her company's values, sense of pride in his/her company and assigned role, bonding and loneliness in the workplace) affect biological well-being, offering new insights into boundary conditions that determine the interactions between environmental factors and individual's mental health and personality traits.

研究分野：健康経営・ブランド論

キーワード：健康経営 仕事の意義 誇り 絆 孤独感 自己効力感 職場満足感 相互協調的自己観

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、経営学・文化心理学的知見と精神医学・文化神経科学・遺伝子発現研究の知見を統合していくつかの先駆的知見を見出してきた基盤研究(B) (2013-15年、課題番号: 25285113、以下、基盤 B)の延長上として位置づけられ、そこで得られた知見の深化・発展を目的として開始された背景を持つ。Kitayama, Akutsu, Uchida, & Cole(2016)では、この分野の世界的権威である Steve Cole 教授(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)のチームが開発した CTRA と呼ばれる総合的な遺伝子発現指標(Cole, 2008;2009)を用いて、(会社や自分の仕事に対する)誇りと職場での相互協調的自己観(Markus & Kitayama,1991)が生物的健康と正方向で結びつくことを関連遺伝子の転写反応のレベルで明らかにした。しかし、この結果は大手 IT 企業の 40 代以上の男性社員を対象としたデータから得られたものであったため、この知見が現代の日本企業においてどの程度一般化できるのかという点で理論的な信頼性・妥当性の深掘りが必要であった。それゆえ、組織形態(i.e. 大企業と中小企業)や個人属性(i.e. 女性/若年就業者)の対象を拡張し、当該知見の信頼性・妥当性の再検討、境界条件の特定、新たな心理機序の解明、および効果的な介入手法、を明らかにすることが本研究を開始する主な動機であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、社会経済環境に適応すべく変化・多様化する企業経営と制度、そしてそれらを反映する組織文化が、そこで働く多様な属性の個人の態度・認知・動機づけ等に影響することを介して彼らの健康状態をどう規定するのか、また、多様な企業・個人の属性がこころと生物的健康との関係をどう調整するのかといった問題を、免疫系機能や疾病罹患に繋がる遺伝子発現や炎症マーカーを用いて探索することにある。こころの働きと遺伝子発現の関係を一部明らかにした我々の先行研究に基づき、本研究では、この関係の一般化および境界条件を明確にすると共に、生物的健康に影響する新たな性格的・心理的要因を明らかにする。更に、従業員の環境適応を促し健康を増進するような経営施策を探索し、その適応促進・健康増進メカニズムを解明して、効果検証を行うことが、研究の狙いとなる。

3. 研究の方法

本研究のアプローチは、以下の3つのテーマから成る。

- (1)基盤 B で得られた知見の一般化や境界条件の特定を目的とし、組織形態や個人属性が拡張された新たなサンプルを用いて心理・個人特性に関する自記式アンケートと生体指標による調査を実施する。
- (2)従業員の生物的健康に影響する新たな性格的・心理的要因について、インタビューや先行研究レビューから仮説を立てたうえで、その検証を行う。
- (3)社員の健康に効果的な経営施策をインタビューや先行研究レビューを基に設計したうえで、実際に一企業に属する集団に対して介入を実施し、その因果関係及び効果について生体指標を用いて検証する。

計画として、テーマ(1)では、まず境界条件として想定される企業形態や個人属性の異なる参加者を対象にインタビュー調査を実施し、その違いについて定性的に検証する。次に、ここで得られた知見と文献調査に基づいて検討された自記式アンケートと生体指標による調査を、個人属性がより多様化されたサンプルによって検討する。

テーマ(2)では、包括的な文献調査と企業経営層及び従業員を対象にしたインタビュー調査を実施し、健康に効果を持つ変数について更に探索し、その効果を定性的に調査する。次に、そこまでの知見から見出された仮説変数を盛り込んだ自記式アンケートと生体指標を用いた調査を実施し、従業員の健康に貢献する新たな性格的・心理的要因を検証する。

テーマ(3)では、まずインタビュー調査を実施して、健康に効果的な経営施策について、その施策と心理的要因との関係性及び心理プロセスについて更に探索する。次に、想定される変数をベースとした施策を立案し、実際に参加者に対して介入調査を実施する。

4. 研究成果

(1)基盤 B の研究で得られた知見の一般化及び新たな心理機序の解明の検証を主目的として、複数の企業において、心理・個人特性に関する自記式アンケートと生体指標との関係性の調査を実施した。調査参加者は幅広い年代(20代~50代)の男女を対象とした。心理・個人特性の自記式アンケートについて、職場のデモグラフィック属性による差異をまず検討したところ、性差及び役職差が見られた。具体的には、全体的な傾向としてポジティブな心理尺度(仕事の意義、職場満足感、自己効力感等)については男性社員の方が女性社員よりも高い得点の傾向がみられ、一方でネガティブな心理尺度(孤独感)は女性社員の方が高い得点傾向が見られた。さらに役職者の方が非役職者よりもポジティブな心理尺度については高い得点傾向が見られ、ネガティブ

な心理尺度については非役職者の方が高い得点傾向が見られた。ただし、一企業において、女性に関して役職者の方が非役職者よりも孤独感が高い傾向が見られ、仕事の意義や満足感といった項目の役職による差はみられなかった。一般的には役職者の方が非役職者よりも孤独感は低い(さらには、仕事の意義や職場満足感が高い)ことが多いが、本結果は女性リーダーの職場環境の改善(孤立感が高く、役職者としての裁量が小さい環境である可能性もあり得る)が求められることを示唆している。一般的に日本企業における女性管理職の割合は先進諸外国と比べて低い傾向にあり、女性の場合は管理職であることの心理的負荷やネガティブ感情が想起しやすい状況である可能性は高いため、女性管理職の登用促進や会社としてのフォローが特に必要だと推測される。生体指標については、遺伝子発現指標(CTRA)および免疫系たんぱく質指標(サイトカイン)を調査参加者の血液から抽出し、指標として使用した。その結果、個人の健康状態に影響を及ぼすと想定される心理・個人特性(会社と個人の価値観の同一化、組織や仕事に対する誇り、絆、孤独感、離職意図)が生物的健康に影響を及ぼすことを明らかにした。本結果から、基盤Bの研究で得られた知見がより一般化されると共に、生物的健康に影響する新たな性格的・心理的要因が見出された。さらに、その影響が企業環境や組織風土によって異なる作用を及ぼすことも示唆された。これは上記の心理・個人特性の境界条件を明らかにしたという点で興味深い。

(2)企業で働く人々の職場に対する認知及び行動が、彼らの健康状態にどのような影響を及ぼすのか、さらには健康状態を改善する手段として有効なアプローチがあるのか、という点を主眼に置いた調査を実施した。具体的には、1企業の従業員を対象に「仕事の意義を振り返ることが個人の健康状態を促進する」という仮説検証を目的とした介入研究を実施した。手続きとしては、被験者を介入条件群と対照群とにランダムに分けたうえで、介入条件群では定期的に仕事の意義について振り返る課題に取り組んでもらった。被験者には、調査開始時、調査途中、調査終了時の計3回自記式アンケートへの回答と採血を実施した。結果として、介入に一定の効果が見られることが明らかになった。ただし、本研究対象となった企業を取り巻く環境が、調査期間中に大きく変動が生じたため、その影響が本研究結果に影響を及ぼしている可能性は否めない。したがって、今回得られた結果については介入課題以外の要因が混在している可能性が高く、慎重な解釈をすべきだと認識している。また、今回対象とした企業における被験者の数が50名程度のため、統計的な信頼性妥当性を高めるためには、もう少し数が多いことが望ましかった。しかしながら、定期的に仕事の意義を振り返ることで、仕事に対するポジティブな感情あるいは認知を想起させ、それが個人の健康に正の効果を及ぼすことは理論的には妥当であり、今回の結果はそのメカニズムの正しさを一定程度支持するものだと考えられる。

ここで得られた知見の、学会での報告、学術論文への投稿を順次進めている。

本研究の学術的意義として、本研究は、これまで医学・心理学の分野で蓄積された知見を経営学のフィールドに援用し、企業とそこで働く個人という文脈で、個人の心理・個人特性と生物的健康との関係性を明らかにした点が挙げられる。社会的意義として、世界的に健康経営へのニーズが高くなっているなか、健康経営を科学的に吟味検討し、新しい経営の視座を示した点が挙げられる。

今後の研究の展望として、生物的健康に重要な要因である働き甲斐を向上させるメカニズムの検討、理論化を目指している。具体的には、研究代表者の専門分野であるブランドマネジメント論の知見における理念共鳴や価値観の内在化という変数を働き甲斐の先行要因として想定したうえで、それら先行要因から働き甲斐、そして健康までの一連のメカニズムについての実証的な検討は重要だと考えている。そのような先行要因を通じて働き甲斐を向上させ、それによる健康増進までの一連のメカニズムを科学的に明らかにすることは、学術的にも社会的にも意義がある。特に、実社会に貢献する理論及びソリューションを提示することは、経営学の重要な役割であり、それに資する取り組みを今後の研究の方向性として志している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 32件 / うち国際共著 27件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 Srirangarajan Tara, Oshio Atsushi, Yamaguchi Ayano, Akutsu Satoshi	4. 巻 11
2. 論文標題 Cross-Cultural Nomological Network of Gratitude: Findings From Midlife in the United States (MIDUS) and Japan (MIDJA)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.00571	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Chiang Jack Ting-Ju, Chen Xiao-Ping, Liu Haiyang, Akutsu Satoshi, Wang Zheng	4. 巻 173
2. 論文標題 We have emotions but can't show them! Authoritarian leadership, emotion suppression climate, and team performance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Human Relations	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0018726720908649	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 中田光紀	4. 巻 36
2. 論文標題 職場の心理社会的ストレスと免疫応答	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 289-295
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kubota Yukihiko, Akutsu Satoshi, Yoda Takuro, Sugitani Yoko	4. 巻 39
2. 論文標題 Current Issues in Brand Research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Marketing Journal	6. 最初と最後の頁 61~74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7222/marketing.2019.025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Quoidbach Jordi、Sugitani Yoko、Gross James J.、Taquet Maxime、Akutsu Satoshi	4. 巻 43
2. 論文標題 From affect to action: How pleasure shapes everyday decisions in Japan and the U.S.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Motivation and Emotion	6. 最初と最後の頁 948 ~ 955
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11031-019-09785-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Uchida Yukiko、Kitayama Shinobu、Akutsu Satoshi、Park Jiyoung、Cole Steve W.	4. 巻 37
2. 論文標題 Optimism and the conserved transcriptional response to adversity.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Health Psychology	6. 最初と最後の頁 1077 ~ 1080
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/hea0000675	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 内田由紀子	4. 巻 352
2. 論文標題 技術の進歩と幸福：日米比較からの視点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 DIO 連合総研レポート	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Krys Kuba、Uchida Yukiko、Oishi Shigehiro、Diener Ed	4. 巻 14
2. 論文標題 Open society fosters satisfaction: explanation to why individualism associates with country level measures of satisfaction	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Positive Psychology	6. 最初と最後の頁 768 ~ 778
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17439760.2018.1557243	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 内田由紀子	4. 巻 1
2. 論文標題 日本の協調性の行方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 104-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Liu I-Ting Huai-Ching, Uchida Yukiko, Norasakkunkit Vinai	4. 巻 10
2. 論文標題 Socio-Economic Marginalization and Compliance Motivation Among Students and Freeters in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.00312	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Uchida Yukiko, Kitayama Shinobu, Akutsu Satoshi, Park Jiyoung, Cole Steve W.	4. 巻 37
2. 論文標題 Optimism and the conserved transcriptional response to adversity.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Health Psychology	6. 最初と最後の頁 1077 ~ 1080
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/hea0000675	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inaba Misato, Inoue Yumi, Akutsu Satoshi, Takahashi Nobuyuki, Yamagishi Toshio	4. 巻 13
2. 論文標題 Preference and strategy in proposer 's prosocial giving in the ultimatum game	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 877 ~ 877
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0193877	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Montero-Marin, J, Kuyken, W, Crane, C, Gu, J, Baer, R, Al-Awamleh, A, Akutsu, S, Araya-Veliz, C, Ghorbani, N, Chen, Z.J, Kim, M.S, Mantzios, M, Rolim dos Santos, D, Serramo Lopez, L.C, Teleb Ahmed, A, Watson, P.J, Yamaguchi, A, Yang, E, Garcia-Campayo, J.	4. 巻 9
2. 論文標題 Self-Compassion and Cultural Values: A Cross-Cultural Study of Self-Compassion Using a Multitrait-Multimethod (MTMM) Analytical Procedure	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2018.02638	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUKUSHIMA Shintaro, TAKEMURA Kosuke, UCHIDA Yukiko, ASANO Satoshi, OKUDA Noboru	4. 巻 61
2. 論文標題 TRUST WITHIN A COMMUNITY IS A DOUBLE-EDGED SWORD: TRUST HAS A POSITIVE INDIVIDUAL-LEVEL EFFECT AND A NEGATIVE CONTEXTUAL EFFECT ON SUBJECTIVE WELL-BEING	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PSYCHOLOGIA	6. 最初と最後の頁 113 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2117/psysoc.2019-B011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ito Atsuki, Gobel Matthias S., Uchida Yukiko	4. 巻 9
2. 論文標題 Leaders in Interdependent Contexts Suppress Nonverbal Assertiveness: A Multilevel Analysis of Japanese University Club Leaders' and Members' Rank Signaling	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2018.00723	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Boiger Michael, Ceulemans Eva, De Leersnyder Jozefien, Uchida Yukiko, Norasakkunkit Vinai, Mesquita Batja	4. 巻 18
2. 論文標題 Beyond essentialism: Cultural differences in emotions revisited.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Emotion	6. 最初と最後の頁 1142 ~ 1162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/emo0000390	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 岡田なぎさ・中田光紀・中野正博・酒井久美子・鷹居樹八子・児玉裕美・小林敏生	4. 巻 40
2. 論文標題 妻または母親役割を持つ看護師の精神健康度に関連する要因およびストレス対処能力 - 結婚, 出産, 育児による離職経験の有無別の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 53 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7888/juoe.40.53	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakata Akinori	4. 巻 8
2. 論文標題 Long working hours, job satisfaction, and depressive symptoms: a community-based cross-sectional study among Japanese employees in small- and medium-scale businesses	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Oncotarget	6. 最初と最後の頁 53041 ~ 53052
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18632/oncotarget.18084	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamaguchi Ayano, Kim Min-Sun, Oshio Atsushi, Akutsu Satoshi	4. 巻 116
2. 論文標題 The role of anger regulation on perceived stress status and physical health	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Personality and Individual Differences	6. 最初と最後の頁 240 ~ 245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.paid.2017.03.053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamaguchi Ayano, Kim Min-Sun, Oshio Atsushi, Akutsu Satoshi	4. 巻 10
2. 論文標題 Influences of Social Capital on Natural Disaster Research in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Sustainable Development	6. 最初と最後の頁 46 ~ 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5539/jsd.v10n3p46	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamaguchi Ayano, Akutsu Satoshi, Oshio Atsushi, Kim Min-Sun	4. 巻 62
2. 論文標題 Effects of Cultural Orientation, Self-Esteem, and Collective Self-Esteem on Well-Being	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychological Studies	6. 最初と最後の頁 241 ~ 249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12646-017-0413-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Norasakkunkit Vinai, Uchida Yukiko, Takemura Kosuke	4. 巻 8
2. 論文標題 Evaluating Distal and Proximal Explanations for Withdrawal: A Rejoinder to Varnum and Kwon 's "The Ecology of Withdrawal"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2017.02085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitayama Shinobu, Yanagisawa Kuniaki, Ito Ayahito, Ueda Ryuhei, Uchida Yukiko, Abe Nobuhito	4. 巻 114
2. 論文標題 Reduced orbitofrontal cortical volume is associated with interdependent self-construal	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the National Academy of Sciences	6. 最初と最後の頁 7969 ~ 7974
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1073/pnas.1704831114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Uchida Yukiko, Savani Krishna, Hitokoto Hidefumi, Kaino Koichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Do You Always Choose What You Like? Subtle Social Cues Increase Preference-Choice Consistency among Japanese But Not among Americans	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2017.00169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasagawa Kaori, Nakayama Masataka, Uchida Yukiko, Takemura Kosuke	4. 巻 88
2. 論文標題 Contingencies of self-worth in employees on medical leave due to mental health disorders	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Japanese journal of psychology	6. 最初と最後の頁 431 ~ 441
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.88.15066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 八谷百合子・柴田美雅・榎田奈保子・工藤智美・加藤寿子・田尾香織・野原由美子・岡山聡子・松村愛・中田光紀・酒井昭典	4. 巻 -
2. 論文標題 ABC検診におけるH.pylori IgG抗体価陰性高値について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Campus Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagata Tomohisa, Nakata Akinori, Mori Koji, Maruyama Takashi, Kawashita Futoshi, Nagata Masako	4. 巻 17
2. 論文標題 Occupational safety and health aspects of corporate social responsibility reporting in Japan from 2004 to 2012	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-017-4356-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 中田光紀	4. 巻 24
2. 論文標題 職業性ストレスの免疫学的指標：細胞性免疫とサイトカインを中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 産業ストレス研究	6. 最初と最後の頁 197-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 栗岡住子・中田光紀	4. 巻 -
2. 論文標題 職場のソーシャルキャピタルを高める管理者のリーダーシップの検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本公衆衛生学会総会抄録集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田クリス孝介・中田光紀, 島ノ江千里・内田由紀子	4. 巻 -
2. 論文標題 心理学と疫学との融合：健康に対する生物心理社会的アプローチ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本心理学会大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 種市康太郎・中田光紀・渡辺和広・真船浩介	4. 巻 -
2. 論文標題 職場のストレスとメンタルヘルス：メンタルヘルス対策の新たな動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本心理学会大会発表論文集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 NAKATA Akinori	4. 巻 55
2. 論文標題 Work to live, to die, or to be happy?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 93~94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.55-93	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計47件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 20件）

1. 発表者名 Satoshi Akutsu
2. 発表標題 Longitudinal Changes in Psychological Well-Being of Middle-Aged Individuals in the United States: A Growth Curve Model
3. 学会等名 32nd APS Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ayano Yamaguchi, Atsushi Oshio, Satoshi Akutsu, Tara Srirangarajan
2. 発表標題 The Dual Upward Spirals of Gratitude, Sympathy, and Satisfaction with Life in Japan
3. 学会等名 SAS Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tara Srirangarajan, Atsushi Oshio, Satoshi Akutsu, Ayako Yamaguchi
2. 発表標題 Cross-Cultural Nomological Network of Gratitude: Findings from Midlife in the United States (MIDUS) and Japan (MIDJA)
3. 学会等名 SAS Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi Akutsu, Fumiaki Katsumura, Jinju Lee
2. 発表標題 The Trap of Complementarity in Postmerger Integration of Equal Mergers
3. 学会等名 EGOS&OS (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Jinju Lee, Satoshi Akutsu,
2 . 発表標題 Filling the Social Void with Action: Workplace Loneliness and Corporate Value Enactment on Sense of Power
3 . 学会等名 EGOS&OS (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Takahiro Soeishi, Akinori Nakata, Tomohisa Nagata, Satoshi Akutsu, Fumiaki Katsumura, Tsukumi Tondokoro
2 . 発表標題 Discovering inflammatory network structure of depression symptoms in Japanese employees: A preliminary analysis
3 . 学会等名 2019 Work, Stress and Health (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Akinori Nakata, Yasumasa Otsuka, Tomohisa Nagata, Yukiko Inoue, Tsukumi Tondokoro
2 . 発表標題 Beyond sleep duration: Association of social jetlag with work engagement in a large population of Japanese daytime workers
3 . 学会等名 2019 Work, Stress and Health (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Tsukumi Tondokoro, Akinori Nakata, Yasumasa Otsuka, Nobuyuki Yanagihara, Hitomi Komada, Noriaki Satoh, Ayumi Anan
2 . 発表標題 Does happiness matter? Biological and reported outcomes of a participatory workplace intervention program may differ by happiness levels among university hospital nurses: A preliminary study
3 . 学会等名 2019 Work, Stress and Health (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 宮澤有里・市川佳居・重盛憲司・松井知子・西川あゆみ・阿久津聡・角田透
2. 発表標題 日本語版レジリエンス・アセスメントの妥当性・信頼性の検討
3. 学会等名 第26回 日本産業精神保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Uchida
2. 発表標題 The ways of well-being and self: A examination of biological and psychological data of Japanese company employees
3. 学会等名 Social Psychology Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahiro Soeishi, Akinori Nakata, Tomohisa Nagata, Satoshi Akutsu, Fumiaki Katsumura, Tsukumi Tondokoro
2. 発表標題 Discovering inflammatory structure of depression symptoms in Japanese employees
3. 学会等名 Applying Neuroscience to Business Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinori Nakata, Yasumasa Otsuka, Tomohisa Nagata, Yukiko Inoue, Tsukumi Tondokoro
2. 発表標題 Social jetlag and suicidal ideation: A population-based cross-sectional study among Japanese daytime employees
3. 学会等名 World Sleep 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinori Nakata, Yasumasa Otsuka, Tomohisa Nagata, Yukiko Inoue, Tsukumi Tondokoro
2. 発表標題 Association of social jetlag with sickness absence and common cold in a large sample of Japanese daytime employees
3. 学会等名 World Sleep 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsukumi Tondokoro, Akinori Nakata
2. 発表標題 Co-occurrence of insomnia with migraine: A population-based study in a large working population in of Japan
3. 学会等名 World Sleep 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田由紀子・竹村幸祐・中山真孝
2. 発表標題 日本におけるシニアの幸福感
3. 学会等名 京機ビジネスクラブ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukiko Uchida
2. 発表標題 The ways of well-being and the self in Japanese society
3. 学会等名 HEC Management Education Seminar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大河原真・永田智久・永田昌子・大谷誠・晃爾・藤野善久
2. 発表標題 不眠症を持つ労働者における睡眠薬治療期間の違いによる労働機能障害の変化
3. 学会等名 第29回 日本免疫学総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大河原真・永田智久・永田昌子・大谷誠・晃爾・藤野善久
2. 発表標題 不眠症を持つ労働者における睡眠薬治療期間の違いによる労働機能障害の変化
3. 学会等名 第92回 日本産業衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上由貴子・中田光紀・栗岡住子・永田智久・森晃爾
2. 発表標題 介護関連職員における主観的健康感と炎症マーカーの関連
3. 学会等名 第92回 日本産業衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田光紀・大塚泰正・永田智久・井上由貴子
2. 発表標題 社会的時差ぼけと易疲労性の関連～労働者を対象とした大規模疫学研究～
3. 学会等名 第92回 日本産業衛生学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shohei Yamamoto, Jordi Quoiach, Daniel Navarro-Martinez, Satoshi Akutsu
2. 発表標題 Mood, nudge and willingness to work
3. 学会等名 Japanese Economic Association, Autumn Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayano Yamaguchi, Min-Sun Kim, Atsushi Oshio, Satoshi Akutsu
2. 発表標題 Bicultural identity orientation of college students in the US and Japan
3. 学会等名 International Communication Association (ICA) Conference 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森貴大・永田智久・木村公紀・坂井寛毅・岩崎まほこ・新里なつみ・永田昌子・森晃爾
2. 発表標題 糖尿病によるプレゼンティズムの発生要因と改善方法：システマティックレビュー
3. 学会等名 第28回 日本産業衛生学会全国協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 永田智久・橋口克頼・伊藤正人・永田昌子・森晃爾
2. 発表標題 産業保健活動がBMIの変動に与える影響
3. 学会等名 第91回 日本産業衛生学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋口克頼・永田智久・森見爾・永田昌子・伊藤正人
2. 発表標題 産業保健スタッフによる介入が生活習慣病とその合併症の発症及び医療費に与える影響
3. 学会等名 第36回 産業医科大学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jack Ting-Ju Chiang, Xiao-Ping Chen, Haiyang Liu, Satoshi Akutsu, Zheng Wang
2. 発表標題 We have feelings but we can't show them! Authoritarian leadership, group emotion suppression climate, and group performance
3. 学会等名 10th Asia Academy of Management Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝村史昭・阿久津聡
2. 発表標題 リーダーシップと組織同一化のバーンアウトへの影響
3. 学会等名 第24回 日本産業精神保健学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上裕珠・阿久津聡
2. 発表標題 国家ブランドの分析枠組み：ブランド・パーソナリティ分析とステレオタイプ内容モデルからのアプローチ
3. 学会等名 第6回 日本マーケティング学会カンファレンス
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 勝村史昭・阿久津聡
2. 発表標題 職場満足感と相互協調的自己観の自発的協力行動への影響
3. 学会等名 日本社会心理学会第58回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukiko Uchida, Kosuke Takemura, Shintaro Fukushima
2. 発表標題 Farming cultivates a shared culture within a community: Examining the macro-level effects with multilevel analysis in farming and fishing areas
3. 学会等名 The 9th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mano Fumika, Ikeda Kaori, Uchida Yukiko, Liu Huai-Ching, I-Ting, Joo Erina, Okura Mizuyo, Inagaki Nobuya
2. 発表標題 Happiness among patients with diabetes is affected by diabetes control and support
3. 学会等名 The 9th Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 頓所つく美・中田光紀
2. 発表標題 働く人々における睡眠と頭痛の関連
3. 学会等名 第90回 産業衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中田光紀
2. 発表標題 労働者における喫煙・受動喫煙と自殺企図の関係
3. 学会等名 第90回 産業衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中田光紀
2. 発表標題 労働者コホートを利用した精神神経免疫学的研究：研究1年後の成果
3. 学会等名 中田光紀
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 永田智久・橋口克頼・伊藤正人・永田昌子・森晃爾
2. 発表標題 産業保健活動が血圧および血糖の所見に与える影響
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Liu Huai-Ching, Uchida Yukiko, Ikeda Kaori, Mano Fumika, Joo Erina, Okura Mizuyo
2. 発表標題 Hikikomori risk among diabetic patients in Japan
3. 学会等名 Cultural Psychology Preconference, Society for Personality and Social Psychology 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石橋理恵・頓所つく実・中田光紀
2. 発表標題 職業性ストレスと自覚的体重増加の関連
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎幹子・中田光紀・井澤修平
2. 発表標題 爪試料コルチゾールを用いた職業性ストレス評価の文献的考察
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 花田佑季・藤本朱音・中田光紀
2. 発表標題 残業時間と多様な睡眠の動態との関連
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上由貴子・中田光紀
2. 発表標題 日本における幸福感に関する研究の動向
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中田光紀・大塚泰正・永田智久
2. 発表標題 労働者における睡眠・生活の不規則性と自殺念慮の関連：労働者10万人を対象とした大規模疫学調査
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中朝美・秋吉葉月・中田光紀
2. 発表標題 働く人々における睡眠とワーク・エンゲージメントの関連
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 緒方友登・中田光紀
2. 発表標題 冠危険因子と免疫・ストレスの関連性に関する文献レビュー
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中田光紀・永田智久・塩田直樹・大和浩
2. 発表標題 喫煙行動の変容に伴う生理学的指標の変化：1年間の追跡研究より
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 頼所つく実・中田光紀
2. 発表標題 働く人々の頭痛の有症率 性別、年齢、業種別解析
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村公宣・中田光紀
2. 発表標題 ポリオ罹患患者の精神的QOLと身体機能、生活満足度との関連
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳原延章・豊平由美子・佐藤教昭・中田光紀・中尾智・浅海洋
2. 発表標題 職場ストレスによる自律神経バランスへの影響について 特に自動測定ソフトの開発とその実証実験
3. 学会等名 第35回 産業医科大学学会総会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 阿久津聡・勝村史昭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 職場ではぐくむレジリエンスの内「第12章 上司のリーダーシップと部下のレジリエンス」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	永田 智久 (Nagata Tomohisa) (40525466)	産業医科大学・産業生態科学研究所・講師 (37116)	
研究 分担者	内田 由紀子 (Uchida Yukiko) (60411831)	京都大学・こころの未来研究センター・教授 (14301)	
研究 分担者	中田 光紀 (Nakata Akinori) (80333384)	国際医療福祉大学・医学研究科・教授 (32206)	
研究 協力者	北山 忍 (Kitayama Shinobu) (20252398)	University of Michigan・Culture and Cognition Lab・Director	
研究 協力者	コール スティーブ (Cole Steve)	University of California、L os Angeles・UCLA School of Medicine・ Professor	